

情報 ひがし労

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

編集者 情宣部

**堀口真明 中央本部執行副委員長の投稿が
2月18日付の「上毛新聞」に掲載されました！**

ロシアによる ウクライナ侵攻から1年

ウクライナに平和の春を

堀口 真明 (安中市・59)

ロシアのウクライナ侵攻から24日で丸1年を迎える。街は焦土と化し、戦闘は激化の一途をたどっている。ロシア軍は、ミサイル攻撃などで各地

のインフラ施設を破壊。ライフラインが遮断されて市民を極寒と暗黒の世界にたたき込んでいる。一方、ウクライナ軍は、総反撃で開戦以降、ロシアに占領された地域を半分以上奪還している。ゼレンスキー大統領は「もつと兵器を」と呼びかけ、欧米諸国が過去最大の追加軍事支援を決め、武器供与を継続。戦争は、長期化の様相を呈している。焦土に横たわる市民や兵士の遺体、日常生活を奪われた避難民の姿を見て、プーチン政権の蝨行に怒りが込み上げる。

この1年間、ウクライナ大使館へ赴き、着の身のまま逃れた市民へ募金し、日本に住むウクライナの人々と共に抗議デモにも参加した。酷寒と死の恐怖の中で耐え忍ぶ市民に「使い捨てカイロ」も送ってきた。家には、

「黄と青」の国旗を巻いた募金箱を置き、コッポツと難民支援を継続している。平和の春を待ち望む市民を日常生活に戻すため支援の輪を広げたい。日本政府はウクライナに人道支援を継続するとともに、国連や第三国と連携して平和の実現を目指してほしい。



ひがし労で配布した
ウクライナ難民支援カンパ箱

ロシアのウクライナ侵攻から1年が経ちました。民間人も含めて両国の死者数は10万人とみられ、ウクライナでは1,300万人が戦火を逃れ避難生活を送っています。

しかし、ロシアのプーチン大統領は戦争をやめるつもりはありません。21日の年次教書演説では、「直面する課題を一步、一步着実に片づけていく」と長期戦の構えも示しました。侵攻自体も「戦争を始めたのは西側だ。われわれは、武力を使ってそれを止めようとした」と正当化し、西側に対する祖国防衛のためだと強弁しました。

一方でウクライナも国民の大半が占領地域の奪還を期待しており、徹底抗戦の意思は固いです。また、バイデン米大統領のキーウ電撃訪問は、この戦争が米ロの代理戦争であることを改めて印象付けました。

私たちは、今すぐこの戦争を終わらせ、ウクライナの人々が安心して暮らせる日が来ることを願っています。